

## 小谷小学校意見交換会（在校生）

令和5年2月24日（金） 16時20分～  
小谷小学校 体育館

① 参加者  
27人

② 出席者  
教育総務課：新井主査・堀主任  
学務課：石井主事・小板谷主事

③ 主な意見要旨と回答（概要）

・学級数が12から18学級と示されているが、吹上・大芦・小谷小学校の3校を統合しても各学年で目指している学級数にならないのでは。

⇒各学年で12から18学級ではなく、学校全体で各学年が単学級とならない12から18学級を目指している。

・仮に吹上小学校との統合が決まった場合、小谷小学校が閉校となる前に、先に吹上小学校に入学することはできるのか。

⇒笠原小学校の統合の際も認めていることから、可能性としてはあり得る。令和6年度統合予定の常光小学校でも認められている。

あくまで指定校は小谷小学校になるので、通学区域の弾力化を行うための手続きは必要となる。また、保護者の責任のもとで通学してもらうことになる。

・在校生は。

⇒笠原、常光の際は認めていない。小谷小学校の際に認めるかどうかは、今後、検討していく必要がある。

・北新宿地区が通学区域を変更したときと同様に、移行期間は設けてもらえるのか。

⇒仮に小谷小学校が閉校し、吹上小学校と統合となった場合は、閉校と同時に全員で統合先の学校に移る。

仮に統合先が吹上小学校だけでなく、赤見台第二小学校や箕田小学校も含めることになった場合、在校生児童同士の関係性や兄弟姉妹の関係性を考慮し、学校を選択することのできる移行期間は設ける可能性は考えられる。

・中学校に進学する際も選択できるようにしてもらいたい

⇒一つの小学校から一つの中学校への進学を考えているため、中学校の選択制は考えていない。仮に吹

上小学校との統合になれば、全員でそのまま吹上中学校に進学。赤見台第二小学校や箕田小学校を含めて通学区域を変更する場合は、それぞれの選択した小学校の進学先である中学校に進学することになる。

・児童数の減少という問題からも、大人は学校の統合について理解しなければならないのは分かる。

しかし、子どもたちは小谷小学校を存続してほしいと願っている。子どもたちが納得できる説明をしてもらいたい。不安・喪失感で学習にも影響が出てくるのではないか。

愛着を持っていて、子どもたちは生き生きと授業参観で勉強していた。

答申でも、子どもたちにとってより良い環境を整えると書いてある。

歴史ある小谷小学校の存続を望む。

・吹上小学校に通学する北新宿地区の児童の多く、特に3年生以上は卒業まで吹上小学校に残る子がほとんどと聞いている。今後、吹上小学校の児童数の維持が見込まれる中、統合は可能なのか。

⇒令和5年1月10日現在で来年度の吹上小学校の児童数等は以下のとおりとなっている。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	64人	76人	97人	98人	107人	89人
学級数	2	3	3	3	4	3

今後、児童数も減少していくことが推測されており、統合することによる児童数の増加を考慮しても、統合は可能。また、35人学級となっているため、一クラスの人数については現状と大きく変わるものではないと考えている。

押し込もうとは考えていない。

算数などでは、習熟度により少人数学習を取り入れるなど、少人数の学級編成については取り組んでいる。

・統合することで、大規模校になってしまったとき、適応できるかが不安。

・仮に吹上小学校と統合となった場合、徒歩での通学となるのか。

⇒原則として、吹上小学校から直線距離で2km外の方を対象にスクールバスを運行する。

例外として、小谷小学校に通学していた頃より通学距離が長くなり、負担が増えてしまう児童や通学班を組むことができない児童、また、新たに設定された通学路の安全が確保されていない場合は、乗降場所まで来てもらうことを条件にスクールバスの利用を許可することもある。

現在、運行している鴻巣中央小学校（笠原地域）のスクールバスでは、郷地橋付近の通学路の安全性が確保されていないことから、整備が完了するまでは、2km内も含めて、スクールバスを運行している。

・放課後児童クラブまではスクールバスで行くことができるのか。

⇒仮に、スクールバスが運行になるとすれば、下校の際にもスクールバスは運行されることから、乗降場所を小谷放課後児童クラブや小谷小学校に設定し、児童クラブまでの送迎も考えられるが、今後の検討

事項となる。

小谷放課後児童クラブは民設民営の施設となっているため、運営していくにあたって、クラブでバスを運行するというのであれば、そちらを利用してもらうことになる。現在は、その他の児童クラブでも学校からクラブ間はクラブのバスが送迎対応していることから、小谷地域だけが別の対応になるというのも考えづらい。

いずれにつきましても、吹上小学校から小谷放課後児童クラブまで徒歩ということは考えられない。

・スクールバスの乗降場所は。

⇒笠原地域で運行しているスクールバスは、公共施設や民間の会社、お寺の駐車場を借りて設置している。道路上にバスを停車しての乗降は行っていない。小谷小学校でも同様に考えているが、具体的にどこを乗降場所にするかは今後検討していく。

・小谷小学校だけでなく、複数箇所設けてほしい。

⇒現時点では、具体的な場所を検討しているわけではないが、仮に、スクールバスの運行をする場合は、複数箇所の乗降場所を検討していく必要がある。他の地域との比較から一カ所ということにはならないと考える。

・吹上小学校から小谷放課後児童クラブに行く場合、クラブ側の対応ではなく、市でスクールバスを運行してもらいたい。統合しても今まで通りの生活ができるように極力維持できるようにしてもらいたい。

⇒児童クラブとのやり取りを含め詳細は現時点では決まっていないため、はっきりしたことは言えないが、統合しても今まで通りの生活ができるように極力維持できるように対応していきたいと考えている。

・統合の時期も決まっていないのか。

⇒現在は決まっていないが、児童数の推移を見ると、令和9年度までには取り組みたいと考えている。

統合しますとの情報は、約1年半前にお伝えする。例えば令和7年度であれば5年度、9年度であれば7年度。議会へ提案する1年以上前にはお知らせする。

・大芦小学校の統合予定年度は延びたと聞いているが、本当なのか。

⇒大芦小学校に関しても小谷小学校と同様に令和6年度から9年度という計画を出しているが、まだ統合の年度が決まっていないので、延びる、延びないはない。当初示している計画は変わらない。この計画の中で、意見交換会等を実施しながら、具体的な統合年度等を検討していく。

・統合の経緯がよく分からない。子どもたちの出生前から再編に関する計画を出せないのか。

もっと早い段階で統合について示すことはできなかったのか。

意見交換会を実施することで、小谷小学校が存続する可能性もあるのか。個人的には意見を交換しても統合するという結果が変わることはないのではないかと考えている。

⇒存続する可能性がないことはない。しかし、今後、児童数が減少し、入学児童数が一桁になることが推

測されている中で、それまでには状況を改善していかななくてはならないと考えて今回の提案をしている。  
ただ、統合を望まないという意見があったことは受け止めさせていただく。

・いくら意見を出しても統合の考えは覆らないという、諦めの気持ちを持つ保護者もいる。

・未就学児の保護者には通知しているのか。子どものことを第一に考えて、未就学児検診の後など、意見交換会を実施してほしい。

⇒個別の通知は出していない。本日の意見を踏まえて、今後の未就学児を持つ家庭への対応について検討していく。

・通学区域 2 km未満は徒歩であるが、ギリギリの場合、下校時に日が落ちてしまうこともある。暗い中で、一人で帰ってくるのは心配である。

現状でも、家が遠い児童は、帰る際に暗くなってしまうので保護者が送迎することもある。

⇒他の地域でも距離が遠い子どもたちはいる。街灯の設置など担当部署と情報共有していく。

・1 kmを超えた場合など、バスの基準をもっと緩和しても良いのではないか。

⇒スクールバスを変更する場合、他の地域も含めて検討していかななくてはならない。その地域が通うべき学校はどこが良いのかという点を、在校生・未就学児でそれぞれ検討していかななくてはならない。

・在校生は最後まで小谷小学校に残り、未就学児はどこかの学校に入学するか選択するといった、移行期間を設けてほしい。子どもたちの意見を聞く機会はあるのか。

⇒新入学生が入ってくることを在校生は楽しみにしている。子どもたちのことを考えると、時期を決めて、統合するほうがよいと考えている。

子どもの気持ちを聞く機会も設けるが、タイミングは慎重に判断したい。子どもたちが不安な時期は短くしたいと考えている。

・笠原、常光地域とは切り離して、小谷地域として統合のあり方を検討してもらいたい。

・教育にかけられる予算も限られていることは重々承知しているが、スクールバスや未就学児の対応等、子どもファーストで考えてもらいたい。